

秩父病院地域研修 感想文

日本医科大学武蔵小杉病院 研修医 2 年目 K.S.

秩父病院での研修で 1 番印象に残っているのは外来研修です。初期研修先では外来研修を研修の後半で選択しているため、今まで外来研修というものを経験したことがありませんでした。また研修先が大学病院ということもあり、今まで研修医として、急性期の患者さんを主に診察してきました。その際、急性期の患者さんが退院後どういう医療を受けられているのか気にはなっていたものの、実際に自分で診る機会がありませんでした。その点、秩父病院では自分で外来フォローを行えるため、初診からその後の経過を自分で診ることができ、治療を行うだけでなく、病状や今後の治療方針の説明など、疾患だけでなく患者を診るということを勉強することができました。

これをより強く感じることはできたのは小鹿野中央病院での研修です。小鹿野中央病院では病院と同じ敷地に役所の保健課と福祉課の窓口があり、医療・介護・保健・行政が綿密に連携している特徴があります。私は大学病院での研修を通じ、自宅での療養環境が整っていないために急性期病院に運ばれてしまい、自宅での療養が叶わないケースを幾度となく経験し、急性期治療を終えた後の医療サポート充実の必要性を強く感じていました。小鹿野中央病院では地域医療に力を入れており、働いている皆さんが、患者さんの身体状況だけでなく家族や生活背景も含めて患者さんの暮らしの状態を把握していらっしゃいました。病気に関する事以外にも話を聞いて状況を把握し、町全体の住民の健康を促そうと積極的に働きかけ、地域包括ケアの中心を担っているのだとわかりとても感銘を受けました。医師として治療はもちろんのこと、超高齢社会である日本では急性期治療を終えた患者さんの生活環境を考え、医療を提供することは今後大変大事だと感じました。

私が産婦人科志望ということもあり、地域医療中の 2 日間、岩田産婦人科でも研修をさせていただきました。自分の研修病院では産婦人科医が増加しているため、勝手に産婦人科は増えてきていると思っていましたが、秩父には産婦人科が 1 つしかなく、年々お産が減っているというお話を聞き、産科医の地域偏在化の深刻さを実感しました。また、初期研修先での産婦人科研修では主に病棟管理を行っていたため、なかなか外来をみる経験がなかったのですが、岩田産婦人科では積極的にエコーや内診をさせていただき、大変良い経験となりました。

地域医療では 3 病院で研修させていただきましたが、一貫して感じたことは「同じ診療科でも、どの地域で、どの病院で働くかによって求められるものは違ってくる」ということです。治療が出来なければ何も始まらないため、まずは急性期対応が出来る様に研修を行っていかうと思いますが、自分がどのフェーズの医療に携わりたいか意識しながら今後の医師人生を歩んでいきたいと思っています。

最後になりますが、ご指導していただいた先生方、各施設の関係者の皆様に御礼申し上げます。

ます。1ヶ月という短い間ではありましたが、誠にありがとうございました。